

# 子供の火遊び対策



岡崎市消防長  
平山 雅之 氏

「火の用心！マッチ一本火事の元！」、今は懐かしいフレーズになつてしまった感があります。しかし、今の子供たちは火の利便性、危険性などを肌で知る機会が時代を追うごとに無くなつていきます。

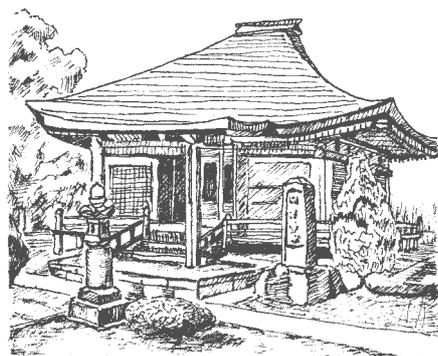
岡崎市内においては、子供の火遊びが原因で発生したと思われる火災は、毎年十件程度発生しております。その原因のほとんどは、子供たちだけでライターやマッチで遊んでいて、付近の紙くずや衣類、あるいは枯れ草等に着火し、燃え広がったものとなっております。

岡崎市においては、こうした子供の火遊びを防ぎ、火災予防に関する知識を少年のころから培うことを推進しています。具体的には、火に関

する諸原理を勉強して色々な学業を助長し、将来における予防的効果を期待することを目的として、小中学生を対象に各学校単位で「少年消防クラブ（BFC）」が組織されております。

主な活動は、愛知県消防学校への一日入校をはじめ、防火作品展や岡崎市総合防災訓練、あるいは各地域での防災訓練に参加することなどです。また、それぞれの学校や地域において、子供たちが防火・防災に関する知識・技能や生命と暮らしを守ることの大切さを学習するとともに、規律や防火マナーを身につけ、健全な地域防災の担い手となるよう努力をしていただいております。

消防本部といたしましては、こう



(ひらやま まさゆき)

## 教育随想



平成19年1月1日

# 1月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
岡崎市消防長 平山 雅之氏	
この人に聞く	2
サークルKサンクス取締役相談役 外山 泰三氏	
羅針盤	2
英語科指導員 石川 敏幸	
ふれあい	3
秦 梨小 高橋恵理子 ミラノ日本人学校 青山 賢治	
特集	4
継続は力なり —アイデアいっぱい帯タイム—	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
思いやりの桜（平成6年）	
この本を	8



絆

サークルKサンクス取締役相談役

外山 泰三 氏

「何をやるにしても、周りの人の話をよく聞いてから始めることが必要です。話を聞く中から絆が生まれる。トップダウンで命令を出す場合でも、そこに至るまでに多くの意見を集めることが大切なのです。」

そう語る外山さんの座右の銘は、聖徳太子の「和を以つて貴しとなす」である。

東海地方のコンビニエンスストアの草分けとなるサークルKを立ち上げるプロジェクトに、外山さんが参加したのは三十六歳のときであった。「一九七九年に大規模小売店舗法



ができました。これまでのように店の規模を大きくして、利益を伸ばしていくという経営方針を根本から見直さなければならなくなったのです。」

そこで、コンビニエンス事業展開のため渡米し、アメリカカサークルKと業務提携を結んだ。

「フランチャイズ方式で小型店舗を展開していく。これなら、地域の人々と共に利益を追求し、消費者のニーズに合わせたきめ細かいサービスが、可能だと思ったからです。」

しかし、外山さんの新しい考え方を理解してくれる人は少なかった。「小店舗まで手を広げて利益の拡大を狙うのか」と、マスコミから批判されたこともあった。

「当初は、うまくいかないことが多くありました。特に、新しく店を開こうとする方たちに、フランチャイズという方式を分かってもらおう

に苦労しました。お互いの利益になることを理解してもらうまで、何度も何度も話し合いました。そんな中から、太い絆が生まれたのです。今でも、当時のオーナーさんから『あのとき、外山さんから誘われてよかったよ』と、声をかけていただくこともあります。」

サンクスとの合併後三年で、外山さんは、惜しまれながら社長職を退く。

「厳しい競争の中で、コンビニ業界は今以上に便利なサービスが求められています。変化の激しい社会では、経験がマイナスとなってしまうことも多い。柔軟な考えの若い人たちに任せていくのも大切なことだと思つたのです。」

現在、外山さんは市内の小学校の近くに生まれしており、子供たちを見守り、あいさつもしてくださる。

「最近、いじめによる自殺や虐待など、子供たちにとって悲しい事件が多く起きています。その原因の多くは、コミュニケーションの不足です。子供たちを囲む保護者、学校、そして地域がもっと連携し、太い絆が生まれるといいと思います。」

子供たちを見つめる温かい眼差しの中に、人との絆を大切に作る誠実な人柄をうかがうことができた。

氏 名 とやま たいぞう  
 生年月日 昭和十七年八月二十六日



生き生きとしたALTとの  
 ティーム・ティーチング

英語科指導員 石川 敏幸

A中学校での英語の授業。ALTとのTTである。英語での挨拶が終わると、全員で元気よく英語の歌を歌い始めた。その声量に驚く。生徒全員が大きな声で、しかも楽しそうな表情で歌っている。これで授業のウォーミングアップは十分である。歌い終わったところで、グッドシンガーをALTが選出し、皆で拍手。クラスの雰囲気は温かい。

次の活動は、復習のための文型練習であるが、ここでALTとのTTが生かされた。教師とALTの簡単な対話の中に、重要文が含まれていた。生徒はすぐに気付き、スムーズに文型練習を始めることができた。普段から英語を話す場面を多く設定しているのである。続くペアでの対話練習も、生徒がしっかりと声量と発音で、自信を持って

# みんなの心ふれ合えば

秦梨小 高橋恵理子

「早く、卒業したい。」

ある日の授業後、A子はわたしに言った。クラスの十一人は、もめごとが起こるたびに、友達のことを悪く言い合っている。そんな姿を見るにつけ、悲しい思いになった。心が一つになっていないまま卒業させるわけにはいかないと考えた。

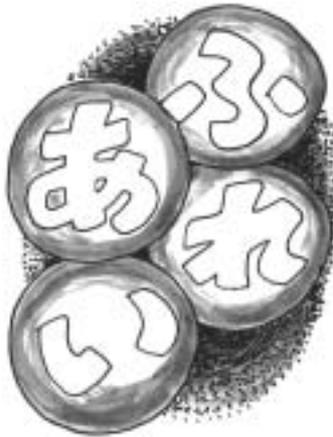
小規模校のため、普段の学校生活は、縦割りでの活動が多い。学芸会は、クラスで目標に向かう貴重な機会である。わたしは、学芸会で十一人の心の一つにしようと決めた。

練習中「みんなで作りに上げていくんだよ」と何度も言っていて聞かせた。次第に台詞や動作をアドバイスし合う姿が見られ、全員で劇を成功させるのだという

気持ちも芽生え始めた。劇の最後に「みんなの心ふれ合えば、すてきなことが花開く」という言葉の入った歌を選んだのは、わたしの意図だった。



本番三日前、子供たちに「この歌詞の意味を考えてみて」と投げかけた。「劇が終わった時、クラスがこうなっていたらいいな」と答えたのはA子だった。



## ハイタッチの心

ミラノ日本人学校 青山 賢治

ミラノ日本人学校では、昨年度から小学部にイマージョン教育が導入された。本校のイマージョン教育とは、英語の授業をするにあたって、日本語を使わずに英語だけで進めていく学習のことである。今、カナダ人のフランシー先生と私が、ティームティーチングを組んで授業を行っている。イタリアの学校なので、英語のイマージョンの授業のほかに、イタリア語の授業ももちろんある。

日本語・イタリア語に加えての英語の学習であるが、チャレンジ精神旺盛な子供たちの多くは、新しい学習へ前向きに取り組む組もうとしている。



ところが、「僕、イタリアに来たばかりだからわかんないよ」と、五月に越してきたA男は訴えた。転入生の多い日本人学校では、授業中に何人かの子供たちの理解援助に回るので、A男にはばかりついてもらえない。ある日、A男の授業の振り返りカードに「つまんなかった」と一言だけ書いてあった。担任ではないが、手は差し伸べられると思った。

まずは人間関係からだ。廊下ですれ違う度に声をかけ、朝と帰りは校門でハイタッチをするようにした。

次の週「What do you want to do?」とフランシー先生が尋ねたとき、A男は私の様子を伺いながら「I drink coffee」と恥ずかしそうに答えたのだ。思わずその場で拍手をしてしまった。A男が、殻を破った瞬間だった。その日の授業の感想には、「ちよっと楽しかった」と書いてあった。

英語を話している。英語を話すことが楽しい、という感じがよく伝わってくる。

続いてALTのショートスピーチのリスニング活動である。活動用に配付されたワークシートには、聞き取りのポイントとなる設問が記載されており、ほとんどの生徒が聞き取れている。テーマはパスポートについての説明である。本時は「入国審査での対話」を学習するのだが、ここまでのすべての活動が有機的に結びついている。

そして生徒の目が最も輝いた瞬間がやってきた。「みんなにパスポートをあげます」という教師の一言に歓声と拍手が起こる。本物とそっくりの教師自作のパスポートが配られた。生徒一人一人の顔写真が印刷されている。「すごい」という声が教室中に響く。自分の名前を記入して、入国審査のコミュニケーション活動の始まりである。生徒はこのパスポートを使い、審査官役の教師やALTの質問に答えていく。全員がよみなく対話を続けている。教室中が笑顔であふれ、生き生きとした対話活動の時間になった。ALTとの役割分担がしっかりとなされ、自作教具が効果的に使われたTTの好例である。



—**継続は力なり**—  
—アイデアいっぱい帯タイム—

さくらさくら  
上りのたけ  
一年  
やまもと  
たご上げをしたよ  
ふわふわと  
そらうたがじ  
びりびり  
足をうかしたよ  
そらうたがた  
たの足ほ  
たのゆいほたつて  
びがびかと  
きれいながやいたよ

▲ 愛唱詩集を使った詩タイム (福岡小)

学校の一日の始まりに、特色ある「○タイム」が位置付けられているところが多い。朝の読書については、ほとんどの学校で定着してきた。そして、学校によっては、昼や帰りなどの時間を使い、子供の実態に合わせ、アイデアを生かした取組がなされている。どの学校も繰り返し活動することで子供の力の定着をねらっている。

この帯タイムを使い、小学校においては、学習の基礎基本の定着を図るため、視写・聴写・音読・スピーチなどの言語力の育成、計算力の育成、英語活動がある。また、心を育てるエンカウンター、体を鍛えるかけ足や一輪車などの取組が行われているところもある。他に、自然に親しむための裏山探検など、学校の環境や条件に合わせた豊かなアイデアがここにある。

中学校では、読書活動・基礎学力向上のための学習が多い。中にはテレビ解説や生徒の意欲を引き出す工夫を凝らしている学校もある。

全校の子供が集う活動にも工夫が見られる。子供を主役にし、全員が心待ちにする集会が開かれている。

平成十九年の幕が開いた。新しい年の輝く朝日を受け、希望に夢をふくらませ、元気に登校する子供の姿がある。教育現場には今、多くの課題があるが、どんな時代であろうと、生きる力を育むことは不易である。「継続は力なり」。繰り返しの地道な活動を大切にして、これからも目を輝かせる子供の姿を求めたい。

**集う**



▲ 児童全員参加型の音楽集会 (矢作南小)



▲ おはようタイムで行われるふれあい集会 (男川小)



▲ 30年近く続く朝の読書 (根石小)



▲ 本音を引き出すエンカウンター (岩津小)



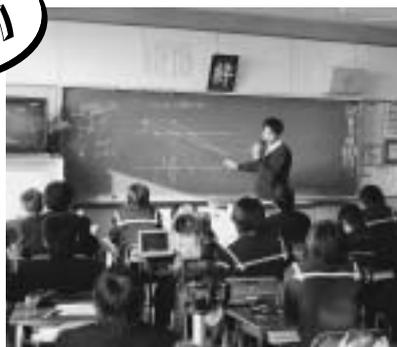
▲ 読解力向上のためのチャレンジタイム (愛宕小)



▲ 英単語コーナー等環境も整備されて進む、毎日10分間の英語タイム (大樹寺小)



▲ 優勝カップをめざして取り組む朝の学習 (北中)



▲ 逆送システムを利用した朝の学習のテレビ解説 (矢作北中)

学ぶ

鍛える



▲ バランス感覚を養う一輪車タイム (大雨河小)



▲ 年間通して行われる朝のかけ足 (六ツ美南部小)



▲ スケッチをしながら自然とふれ合う常南タイム (常磐南小)



▲ 4年 柴田 苑佳

親しむ



▲ 生徒の心に響く教師の3分間スピーチを取り入れた月曜集会 (城北中)

# お知らせ

## ● 教育最新情報

### ○ 幼保小連携の強化

幼児期は、遊びを中心とする集団生活の中で、生涯にわたる人間形成の基礎を培うきわめて重要な時期である。

平成十八年十月には文部科学省より、「幼児教育振興アクションプログラム」が通知され、幼稚園運営の一層の弾力化、幼稚園・保育園教育と小学校教育の円滑な移行と連携、幼児教育の推進を図ることとされている。

本市においては、平成十三年度から幼保小連携への取組を継続して行ってきた。そして、五年間にわたる準備期間を経て、本年六月に「岡崎市幼保小連絡協議会」を立ち上げることができた。



### (1) 幼保小連絡協議会の活動

岡崎市の幼稚園（市立三、私立二十一）、保育園（市立三十五、私立十八）、小学校（五十）計一二七校園が、岡崎市福祉保健部と岡崎市教育委員会が協力して、本協議会（村岡真澄会長・愛知教育大学教授）の活動を協働推進している。



▲ 岡崎市幼保小連絡協議会全体会

方」を開催した。会には、各校園から一七六名が参加し、分科会に分かれて、連携についての具体的な協議がなされた。



▲ 岡崎市幼保小連絡協議会連携研究会分科会

### (2) 研究会の実施と今後の取組

研究会へ参加された先生方からの事後アンケートには、次のような声があった。

- ・ 研究会の持ち方では提案を増やし、相互理解のさらなる深化を図ること
- ・ 小学校との交流の時期では年間計画への組み入れによる計画的な交流を実施すること
- ・ 就学に関する情報の連携をすること

本協議会では、今後も幼保小の連携をさらに深め、その内容の充実を図っていききたい。

## ● 社会体験型教員研修報告

### ○ イオン岡崎ショッピングセンター

#### 「きもの 錦」での研修 連尺小 加藤 文美

わたしは、日本の伝統と文化である着物に触れ、接客を中心とした人とのかわりについて視野を広げるために、今回の研修に参加させていただいた。

研修で学んだことの一つに、一人のお客様と向き合い、顔を見て話を進めていく「対面接客」がある。「いらっしゃいませ」の後に、「何かお探しいましますか」という言葉を添えた丁寧な対応が、目の前にいるお客様の要望に応えようとする姿勢の強さを感じさせた。そして、お客様を大切に

にする心を知ることができた。次に、店内の環境についてである。開店前の清掃や準備色の配列、デザイン、値段を考えた陳列などのすべてが、店の活気や清潔感、美しさに通じていた。気持ちの良い環境が、お客様を引きつけるのだということをおぼることが

きた。

この体験をもとに、今後の教育現場にも、人のかかわりを大切にする対面接客の考えや美しく清潔感のある環境という二つの学びを生かして、子供・保護者の思いを受け入れる姿勢や誠意を、常に大切にしていかなければならない。また、教室の花、子供の作品、あいさつなど、すべてが活気に満ちているような心遣いを忘れてはならない。これからも、明るい声と人を和ませる笑顔で子供たちの心をつかみ、生き生きとした教師でありたいと思う。



▲ 新しい浴衣の商品整理

● 第三十四回教育文化賞授賞式



▲ 教育文化賞授賞式 (11月18日：せきれいホール)

「教育文化賞」は、岡崎市の教育文化振興に寄与する個人または、団体の優れた業績や、現に続けている研究・活動に対し、顕彰・助成を行う目的で実施している。今年度推薦された個人・団体は総計四十四点で、いずれも永年の地道な努力の積み重ねによる成果が顕著であった。式典終了後、岡崎出身の日本を代表するピアノニスト河合優子氏と岡崎市立城北中学校オーケストラ部、岡崎ジュニアシンフォニックオーケストラによる記念演奏会が行われた。

(個人の部)

◆ 岡田 康孝 氏

昭和六十二年から、人間愛や家族愛、笑顔やあいさつの大切さなどに関する講演を、三六五回以上続けている。人々の心に感謝と思いやりの気持ちを根付かせる取組をしている。

◆ 長坂 一昭 氏

昭和四十五年より人物・歴史・文化の調査研究・普及に尽力する。昭和五十四年から志賀重昂に関して独自の調査をし、未公開の資料を発掘・分析して広く公表している。

◆ 杉崎利兵衛 氏

昭和三十年より五十二年間、環境教育、環境緑化活動に幅広く貢献している。度重なる全国特選受賞の推進役として、また、園芸講座・研修会等の講師として活躍している。

(団体の部)

◆ 城北中学校オーケストラ部

平成九年、市内初の中学校オーケストラ部として創設。

全国こども音楽コンクールで、平成十六年に合奏第一部門、翌年に重奏部門で文部科学大臣奨励賞を連続受賞する。

◆ 岡崎城西高等学校和太鼓部

平成四年に創設し、演奏活動は、地域交流を基盤に年間五十回を超えている。今年は国際民間文化芸術交流協会からの推薦で日本を代表して、海外演奏も実施している。



▲ 柴田市長より賞状を受ける受賞者



▲ 河合優子氏と岡崎ジュニアシンフォニックオーケストラ

◎ 記念演奏会

● 表彰

◆ 第五十五回県中学校駅伝大会

- 男子 二位 矢作中
- 男子 三位 六ツ美中
- 女子 三位 六ツ美中

◆ 全国児童生徒明るい選挙啓発ポスター

- 文部科学大臣・総務大臣賞
- 北中 三年 林 完治

◆ 第四十回全国中学校文芸作品・歌曲創作コンクール

- 文芸の部「詩歌」部門
- 特選(文部科学大臣奨励賞)
- 甲山中 二年 鈴木達三

● 文芸の部「作文」部門

- 特選(文部科学大臣奨励賞)
- 東海中 二年 高木竜一
- 常磐中 三年 安藤 翼

● 中学校文芸教育研究会会長賞

- 常磐中 二年 加藤彩乃
- 文英堂社長賞
- 甲山中 二年 尾崎岳人

◆ 第四十一回全国野生生物保護実績発表会

- 日本鳥類保護連盟会長賞
- 生平小学校

◆ 全国みどりの少年団活動発表会

- みどりの奨励賞&松本賞
- 額田中学校

◆ 第十二回日本管楽合奏コンテスト全国大会

- 優秀賞
- 竜海中吹奏楽部

◆ 第二十回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト

- 優良賞
- 美川中学校

◆ 第三十七回ジュニアオリピック陸上競技大会

- 男子Aクラス800m
- 第三位 美川中三年 山本 龍
- 女子走り高跳び
- 第八位 岩津中三年 中嶋文望

◆ 第十回日本ジュニア数学コンクール

- 奨励賞
- 美川中三年 柴田淳平

◆ 教育楽器会器楽コンクール東海北陸大会

- 最優秀賞
- 岩津中吹奏楽部

◆ 第十回ボランティア・スピリット賞

- 中部ブロック「ブロック賞」
- 城北中 三年二組

◆ 第二回「明日の風文芸賞」

- 明日の風大賞
- 甲山中 二年 柴田 悠
- 県知事賞
- 甲山中 二年 鈴木達三
- 大雨川小 六年 加藤彩花

◆ 第六十回発明と工夫展

- 中日新聞社賞
- 梅園小 五年 都築千佳

◆ 第三十六回全国人権作文コンテスト県大会

- 優秀賞
- 甲山中二年 鈴木達三
- 小・中学校作文コンクール
- 優秀賞
- 竜海中三年 都築緑紗

◆ 第四回県キャデット・アーチェリー大会

- 優勝
- 東海中三年 鈴木由利佳
- 福尾隼大・長坂和佳

◆ 県中学生バレーボール新人大会

- 男子 二位 竜海中
- 男子 三位 東海中
- 女子 二位 福岡中

・カ  
ツ  
ト  
甲  
山  
中  
犬  
塚  
学

# 思いやりの桜 (平成6年)

写真提供：矢作東小学校

平成六年、「思いやりの桜」の植樹式が行われた。この桜は、ダム建設のため湖底に沈む樹齢四百年以上の荘川桜の苗木である。「太平洋と日本海を桜で結ぼう」を合言葉に、二千本以上の桜を植え続けた旧国鉄バス「名金線」車掌、佐藤良二さんのお姉さんからいただいた。

岡崎市は岐阜県との取り決めで、平成十二年度より、学校に桜を配付する事業を始め、昨年度までに三十九校に植えられている。本年度も、十二校に配付され、大切に育てられている。

矢作東小の桜は現在、幹の周りが六十七センチになり、春にはきれいな花を咲かせ、子供たちの心に潤いを与えている。



## 岡崎の教育



- \*まほろ駅前便利軒 三浦しをん ¥1600  
文藝春秋社
- \*詩集「ホイッスル」 栗木 宏美 ¥1300  
蒼岳舎
- \*古城の風景3「一向一揆の城」 宮城谷昌光 ¥1300  
新潮社
- \*小さな人生論 藤原 秀昭 ¥1000  
致知出版社

\*八十四歳。英語、イギリス、一人旅 清川 妙 小学館 ¥1680

第二の人生という言葉は、人生のリセットを意味するのではなく、今現在の生き方の延長線上に拓け来るものなのだ。

著者は、53歳から英語を本格的に学び始め、正統英語を求めてイギリス一人旅に挑む。少女のような瑞々しい憧れに似た思いが、84歳までに十数回訪英させた原動力なのだろう。そこで出会う人々の心の交流がおだやかで素敵だ。さて、わが身を振り返り、今をどう生きるか。著者の素朴な問いが突きつけられる。

おせちの歴史は、古くは平安時代にまで遡る。定番の伝統おせち、イタリアンおせち、一セット数万円する高級おせちなど、様々である。年が明けてから行う行事の一つ一つが、その年一年を反映する。お正月におせちを神前に供え、幸せが舞い降りることを祈って、縁起を担ぐ。

その感覚が、時代を経た今でも生き続けている。

新年を迎え、新たな気持ちでスタートを切る。今年の干支は「亥」。猪突猛進、何事にも勇猛果敢に突進していく猪の姿が思い浮かぶ。

しかし、本物の猪はその言葉通りではなく、時には迷走もするそうである。紆余曲折、道を違えることもあるが、今年こそは一意専心、定めた目標に向かって突き進んでいきたい。

# シ オ ス ア

朝露にぬれた春の七草を、子供たちと一緒に探しに出かけた。

「セリは川の近くだよ」「ゴギョウウはこの毛が生えている草」「ハコベはこの畑」「ホトケノザはなかなか見つかからないけど、ここにはあるんだ。覚えておいてね」と、得意顔で下級生たちに教える六年生の姿は、一回り大きく見えた。

豊かに、たくましく育て。

スケッチをする子供たちの真剣な眼差しがある。帯タイムでの裏山探索のひとコマ。

続けて取り組むことで、自然を観る鋭い目と豊かな心を養う。

各学校でも、着実に力が付くように地道な取組がなされている。短い時間でも積み重ねていくことで、大きな力となる。今年も子供たちの輝く瞳に出会いたい。